

科目区分	専門分野	授業科目	成人看護学概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30 時間)	開講年次	1年次
目的: 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴や、健康の保持・増進に働きかける看護を实践するための基礎的能力を養う。 目標: 1 成人の特徴と成人看護の意義を理解できる。 2 成人の健康問題を理解できる。 3 成人保健の現状と、成人に対する保健医療対策を理解できる。 4 成人の健康を育む看護を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 成人の身体的・心理的・社会的特徴	8	1 成人看護の対象 1) 成人(大人)とは 2) 成人期の区分 2 成人の成長発達 1) 生涯発達とは 2) 成人期の発達課題と関連する理論 (1) エリクソンの発達理論 (2) ハヴィガーストの発達理論 (3) レビンソンの発達理論 (4) 成人教育の概念 2 成人期の身体的・心理的・社会的特徴 1) 青年期 2) 壮年期 3) 向老期 3 成人の役割 1) 家族における役割 2) 社会における役割 4 成人の生活	
2 成人の健康および保健医療対策の実践	12	1 成人の健康の状況及び健康問題 1) 統計からみた成人期の健康 (1) 生と死の動向 (2) 健康状況 (3) 受療状況 (4) 自殺 (5) 職業性疾患 (6) 雇用形態 2) 成人の生活習慣に関連する健康問題 (1) 喫煙 (2) 飲酒 (3) 食習慣 (4) 運動習慣 (5) 休養 (6) 歯周病 (7) がん(がん対策基本法) 2 成人の健康レベルに対応した看護活動 1) 保健医療福祉システムの概要 3 健康づくり施策 1) 健康増進・生活習慣病対策	

		(1) 地域保健法 (2) 健康日本 21 (3) その他(がん対策、難病対策など) 講義 4 産業保健の概要 1) ワークライフバランス 2) 労働者の健康問題 3) 労働衛生対策 4) 職業に関連する健康障害と予防および対策の実際
3 成人の健康を育む看護	9	1 生活習慣病 1) 疾病予防の段階 2) 生活習慣病予防対策 2 ヘルスプロモーション 1) ヘルスプロモーションの概念 2) ヘルスプロモーションの目標 3) ヘルスプロモーション活動のプロセスと方法 3 保健行動に対する支援※1 1) 健康教育と自己効力 2) エンパワメント 3) セルフケア
	1	試験
評価方法	筆記試験、レポート過大参加状況・態度等	
テキスト	メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論① メディックメディア 看護がみえる vol.5 対象の理解 I メディックメディア 公衆衛生がみえる	
参考資料	必要に応じて提示する。	
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は日時を厳守すること。	
備考	※1 演習を行う	

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護学概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30 時間)	開講年次	1年次
目的: 老年期にある対象の特徴と対象を取り巻く環境や生活を理解し、高齢者の生命と人格を尊重する態度や看護の基礎的能力を養う。 目標: 1 老年期にある対象の特徴を理解できる。 2 高齢者に対する保健医療福祉対策を理解できる。 3 高齢者の倫理的課題を理解できる。 4 老年看護の機能と役割を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 高齢者の身体的・精神的社会的特徴	10	1 老いるということ 1) 加齢と老化 2) 身体的機能の加齢変化と日常生活への影響 (1) 皮膚とその付属器 (2) 視聴覚系 (3) 循環系 (4) 呼吸器系 (5) 消化器系 (6) ホルモンの分泌系 (7) 泌尿生殖器系 (8) 運動器系 3) 心理機能の加齢変化と日常生活への影響 (1) 知能 (2) 人格 (3) 創造性 4) 社会的側面の変化 2 老いを生きるということ 1) 高齢者の定義 2) 発達と成熟 (1) 高齢者のライフサイクルと発達課題 (2) スピリチュアリティ (3) 健康と生活 3) 家族の支援	
2 高齢社会の保健医療福祉	8	1 高齢者の生活 1) 超高齢社会と社会保障・超高齢社会の統計 (1) 超高齢社会の現状 (2) 高齢者と家族 (3) 高齢者の健康状態 ① 平均寿命と健康寿命 ② 虚弱(フレイル) (4) 高齢者の死亡 (5) 高齢者の暮らし 2 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 保健医療福祉制度の変遷 (1) 認知症の現状 (2) 認知症対策の施策—新オレンジプラン 2) 介護保険制度の整備 3) 高齢者医療のしくみ	

		3 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 1) 高齢者の生活と健康を支える多様な職種 2) 看護職の活動の拡大と専門化 3) 高齢者とソーシャルサポート 4 退院を取り巻く高齢者の社会状況
3 高齢者の倫理的課題	7	1 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 (1) 高齢者に対するスティグマ (2) エイジズム (3) 権利擁護 2) 高齢者に対する虐待 (1) 高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義 (2) 高齢者虐待の実態と特徴 (3) 高齢者虐待の発生要因と予防に向けた支援 3) 安全確保と身体拘束 (1) 身体拘束の定義と身体拘束を禁止する規定 (2) 身体拘束の例外 2 権利擁護のための制度 1) 成年後見制度 2) 日常生活自立支援事業
4 老年看護の機能と役割	4	1 老年看護の4つの側面 2 高齢者のコミュニケーションの特徴と方法 3 老年看護の特徴 1) 高齢者の意思決定 2) 生活機能の回復 3) 死へのプロセスを支える 4) 家族との協力 5) 多職種チームとの協働 6) 地域包括ケアの促進 7) 社会参加 4 老年看護における理論・概念とその活用
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート等
テキスト		医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護・病態・疾病論 メディックメディア 看護がみえる vol.5 対象の理解 I
参考資料		必要に応じて提示する。
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 演習時、積極的な姿勢で参加すること。
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学援助論Ⅰ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次
目的: 成人・老年期にある対象への健康状態の経過に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 急性期・周手術期の看護を理解できる。 2 回復期の看護を理解できる 3 慢性期の看護を理解できる。 4 終末期の看護を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 成人・老年期にある対象の急性期・周手術期の看護	9	1 急性期の看護 1) 急性期の特徴 (1) 急性期の経過と治療の特徴 (2) 治療環境に対する反応 (3) 急性期にある患者及び家族の特徴 2) 急性期にある成人・老年期の対象への看護 (1) 急性期における生命の維持、安全な治療実施への看護 (2) 急性期にある患者の心理と援助 (3) 急性期にある患者の家族の心理と援助 (4) 急性期看護の倫理的側面 2 周手術期の看護 1) 周手術期の特徴 (1) 手術療法による侵襲と生体への反応 (2) 周手術期における看護師の役割 (3) 周手術期における安全管理 2) 周手術期にある成人・老年期の対象への看護 (1) 手術前の看護 (2) 手術中の看護 (3) 手術後の看護 (4) 術後合併症と予防	
2 成人・老年期にある対象の回復期の看護	4	1 回復期の看護 1) 回復期の特徴 (1) リハビリテーション医療の特徴 (2) リハビリテーションを受ける患者の特徴 (3) 障害受容と適応 2) 回復期にある成人・老年期の対象への看護 (1) 障害受容プロセスに応じた援助 (2) 生活の再構築に向けた援助 (3) チームアプローチと社会資源の活用 (4) 地域生活への移行支援	
3 成人・老年期にある対象の慢性期の看護	8	1 慢性期の看護 1) 慢性期の特徴 (1) 慢性期の経過と治療の特徴 (2) 慢性期にある患者及び家族の特徴 2) 慢性期にある成人・老年期の対象への看護 (1) 慢性期の患者のニーズ (2) セルフケア・セルフマネジメントに向けた支援 (3) 行動変容に向けた支援 (4) 療養生活を支える社会資源の活用 (5) 家族介護者への支援	

4 終末期の看護	8	1 終末期看護(エンドオブライフケア) 1) 終末期の特徴 (1) 終末期にある患者及び家族の特徴 (2) 死生観と死への準備 (3) 終末期の経過と治療の特徴 2) 終末期看護(エンドオブライフケア) (1) 意志決定への支援 3) 看取りの実際 (1) 身体的変化とアセスメント (2) 苦痛を緩和するケア (3) 死後の処置 (4) 家族への支援 4) グリーフケア
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 別巻 臨床外科総論 ヌーヴェルヒロカワ リハビリテーション看護論 ヌーヴェルヒロカワ 慢性期看護論 医学書院 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論
参考資料		必要に応じて提示する。 医学書院 臨床外科看護総論 医学書院 老年看護学 南江堂 成人看護学急性期看護Ⅰ
履修上の留意事項		科目を履修するにあたり、予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学援助論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次
目的: 機能障害のある成人・老年期の対象への看護を实践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 呼吸機能に障害のある患者の看護が理解できる。 2 循環機能に障害のある患者の看護が理解できる。 3 身体防御機能に障害のある患者の看護が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 呼吸機能に障害のある患者の看護	8	1 呼吸機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (酸素化障害、換気障害、呼吸運動障害) 2 呼吸機能障害に応じた看護 1) 腫瘍(肺がん、中皮腫) (1) 肺生検 (2) 手術療法(肺切除術)を受ける患者の看護(手術前後) (3) 胸腔ドレナージの管理 2) 炎症性疾患(肺炎、気管支炎、胸膜炎) 3) 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 4) 気管支喘息 5) 治療に伴う看護(非侵襲的陽圧換気、侵襲的陽圧換気)	
2 循環機能に障害のある患者の看護	9	1 循環機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (ポンプ機能障害、刺激伝導障害、血管・リンパ管障害) 2 循環機能障害に応じた看護 1) 心不全 2) 虚血性心疾患 (1) 経皮的冠動脈形成術<PCI>、冠動脈バイパス術<CABG>、大動脈内バルーンパンピング<IABP> 3) 弁膜症 (1) 弁置換術・弁形成術 4) 不整脈 (1) ペースメーカー、植込み型除細動器 5) 閉塞性動脈硬化症(下肢動脈閉塞症) (1) 血栓溶解療法・血栓除去術 6) 治療に伴う看護(補助循環療法(IABP、PCPS)) 3 検査を受ける患者の看護 (1) 心臓カテーテル検査 (2) 心エコー検査 (3) 血管造影	
3 身体防御機能に障害のある患者の看護	12	1 身体防御機能の障害ある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (皮膚粘膜障害、免疫機能障害、骨髄機能障害)	

		2 身体防御機能障害に応じた看護 1) アレルギー性疾患・自己免疫疾患 (関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群) (1) 免疫抑制薬、ステロイド療法、減感作療法 (2) スキンテスト (3) 粘膜・皮膚生検 2) 血液悪性疾患(白血病、悪性リンパ腫) (1) 造血幹細胞移植 3) ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症 (1) 抗ヒト免疫不全ウイルス<HIV>療法
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート
テキスト		医学書院 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院 成人看護学〔11〕 アレルギー・膠原病・感染症
参考資料		必要に応じて提示する。 医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論
履修上の 留意事項		科目を履修するにあたり、解剖生理学、疾病治療論を十分復習して臨むこと。 予習をして授業に臨むこと。 レポート課題や演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考		

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学援助論Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次
目的: 機能障害のある成人・老年期の対象への看護を实践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 消化吸収・排泄機能に障害のある患者の看護が理解できる。 2 栄養代謝機能障害のある患者の看護が理解できる。 3 手術を受ける患者の看護が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 消化吸収・排泄機能に障害のある患者の看護	12	1 消化吸収・排泄機能障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響(咀嚼・嚥下障害、消化管機能障害) 2 消化・吸収機能障害に応じた看護 1) 口腔・咽頭腫瘍(舌癌、咽頭癌、喉頭癌) (1) 咽頭・喉頭癌手術 2) 上部消化管腫瘍(食道癌、胃癌) (1) 食道切除術、胃切除術 3) 下部消化管腫瘍(大腸癌、結腸癌)※1 (1) 大腸切除術 (2) 人工肛門造設 4) 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎・Crohn<クローン>病) 5) 潰瘍性疾患(胃・十二指腸潰瘍)	
2 栄養代謝機能障害のある患者の看護	6	1 栄養代謝機能障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (肝機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害、代謝機能障害) 2 栄養代謝機能障害に応じた看護 1) 肝炎・肝硬変 (1) インターフェロン療法、肝底護療法 (2) 食道静脈瘤内視鏡治療 2) 肝癌 (1) 肝生検 (2) 肝動脈塞栓術 (3) 肝切除術 3) 膵炎・膵臓がん (1) 膵切除術 4) 胆石症 (1) 胆道・胆のうドレナージ (2) 腹腔鏡視下手術 5) 高尿酸血症、脂質異常症、肥満	
3 手術を受ける患者の看護過程	11	1 消化器疾患患者の看護過程の展開 1) 消化器疾患患者事例を用いた看護過程の展開 2) 事例を用いた術後患者の離床支援 ※1	
	1	試験	

評価方法	筆記試験、レポート等
テキスト	医学書院 成人看護学〔5〕 消化器
参考資料	メディックメディア 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 メディックメディア 看護がみえるvol.5 対象の理解Ⅰ 学研 看護過程に沿った対症看護(病態生理と看護のポイント) 学研 疾患別看護過程の展開 照林社 基準看護計画 臨床で良く出合う看護診断と潜在的合併症 医学書院 臨床外科看護総論 医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ その他、必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項	科目を履修するにあたり、解剖生理学、疾病治療論Ⅱの消化器を十分復習して臨むこと。 予習・復習をして授業に臨むこと。 レポート課題や演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	※1は演習を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学援助論Ⅳ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次
目的: 機能障害のある成人・老年期の対象への看護を实践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 内部環境(血糖、体液量、電解質、酸塩基平衡)調節機能に障害のある患者の看護が理解できる。 2 内分泌機能に障害のある患者の看護が理解できる。 3 性生殖器・乳腺機能に障害のある患者の看護が理解できる。 4 排尿機能に障害のある患者の看護が理解できる。 5 皮膚障害のある患者の看護が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 内部環境 (血糖、体液量、電解質、酸塩基平衡)調節機能に障害のある患者の看護	15	1 内部環境調節機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響(体温調節機能障害、血糖調節機能障害、体液量調節機能障害、電解質調節機能障害、酸塩基平衡調節機能障害) 2 内部環境調節機能障害に応じた看護 1) 糖尿病(1型糖尿病、2型糖尿病) (1) 糖負荷試験<OGTT> (2) 血糖自己測定<SMBG>※1 (3) インスリン補充療法 2) 腎不全(急性腎不全、慢性腎不全)、慢性腎臓病 (1) 透析療法 (2) 腎移植術 (3) 腎生検 (4) 静脈性尿路造影	
2 内分泌機能に障害のある患者の看護	2	1 内分泌機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (甲状腺機能障害、副腎機能障害、下垂体機能障害) 2 内分泌機能障害に応じた看護 1) 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症) 2) 腫瘍(甲状腺癌、下垂体腫瘍) (1) ホルモン血中・尿中濃度測定 (2) ホルモン負荷試験 (3) 甲状腺切除術 (4) 甲状腺ホルモン療法	
3 性生殖器・乳腺機能に障害のある患者の看護 (女性生殖器・男性生殖器含む)	6	1 性生殖器・乳腺機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (性・生殖機能障害、ホルモン欠落症状) 2 性生殖機能障害に応じた看護 1) 男性生殖器の疾患(前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌) (1) 勃起障害治療 (2) 手術療法、ホルモン療法 2) 女性生殖器の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫)	

		(1) 腫瘍(乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、) ① 乳房超音波検査、マンモグラフィー ② 手術療法、ホルモン療法 (2) 生殖機能障害(月経異常、更年期障害) (3) 性交障害治療
4 排尿機能に障害のある患者の看護	6	1 排尿機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響(蓄尿・排尿障害) 2 排尿機能障害に応じた看護 1) 腎・尿路結石 2) 腫瘍(腎癌、膀胱癌) (1) 尿流動態検査、残尿測定 (2) 膀胱切除術
	1	試験
評価方法	筆記試験、レポート	
テキスト	医学書院 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 成人看護学〔9〕 女性生殖器	
参考資料	必要に応じて提示する。 医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論	
履修上の留意事項	科目を履修するにあたり、解剖生理学、疾病治療論を十分復習して臨むこと。 予習をして授業に臨むこと。 レポート課題や演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。	
備考	※1は演習を行う。	

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学援助論Ⅴ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次
目的: 機能障害のある成人・老年期の対象への看護を実践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 脳・神経機能に障害のある患者の看護が理解できる。 2 認知症のある患者の看護が理解できる。 3 運動機能に障害のある患者の看護が理解できる。 4 感覚機能に障害のある患者の看護が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 脳・神経機能および認知機能に障害のある患者の看護	14	1 脳・神経機能に障害ある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (生命維持活動調節機能障害、運動・感覚機能障害、言語機能障害、高次脳機能障害) 2 脳・神経機能障害に応じた看護 1) 脳血管障害(大脳、小脳) 2) 脳腫瘍(大脳、小脳) 3) 感染症(脳炎、髄膜炎) 4) 頭部外傷 5) 脊髄損傷 6) 重症筋無力症 7) Guillain-Barré<ギラン・バレー>症候群 8) 筋萎縮性側索硬化症<ALS> 9) 治療に伴う看護 (1) 開頭術、穿頭術、血管バイパス術 (2) 血管内治療 (3) 脳室ドレナージ術、脳室－腹腔<V-P>シャント術 (4) 低体温療法 3 検査を受ける患者の看護 1) 脳血管造影 2) 脳波検査 4 認知機能に障害のある患者の看護 1) 認知機能に障害のある患者の特性 (1) 患者心理 (2) 身体傾向 (3) 起こりやすい問題と生活への影響 2) 認知機能の障害に応じた看護 (1) せん妄	
2 運動機能に障害のある患者の看護	8	1 運動機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (姿勢機能障害、移動機能障害、作業機能障害) 2 運動機能障害に応じた看護 1) 関節リウマチ 2) 椎間板ヘルニア 3) 四肢切断後 4) 骨折(大腿骨頸部・転子部骨折、脊椎圧迫骨折) (1) ギプス固定	

		(2) 牽引法 5) 変形性膝関節症、変形性脊椎症 (1) 膝関節鏡、人工関節置換術 3 検査を受ける患者の看護 1) 脊髄造影、椎間板造影 2) 筋生検
3 感覚機能に障害のある患者の看護	3	1 感覚機能に障害のある成人・老年期の看護 1) 感覚器に障害のある成人・老年期の患者の特性 (1) 患者心理 (2) 身体傾向 (3) 起こりやすい問題と生活への影響 (視覚障害、聴覚障害、嗅覚障害、味覚障害、触覚障害) 2 感覚機能障害に応じた看護 1) 視覚障害(緑内障、白内障、網膜症)、中途視覚障害 (1) 眼底光凝固療法、網膜離治療、眼内レンズ挿入術 2) 難聴 3) Ménière<メニエール>病 4) 副鼻腔炎 5) 末梢神経障害 6) 治療に伴う看護 (1) 鼓室形成術 (2) 小線源治療 3 検査を受ける患者の看護 1) 経鼻内視鏡検査 2) 味覚検査
4 皮膚障害のある患者の看護	4	1 主な皮膚障害 2 褥瘡管理 1) 褥瘡発生リスクアセスメントと予防 2) 褥瘡のアセスメントと処置 3) 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択
	1	試験
評価方法	筆記試験、レポート等	
テキスト	医学書院 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院 成人看護学〔12〕 皮膚 医学書院 成人看護学〔13〕 眼 医学書院 成人看護学〔14〕 耳鼻咽喉	
参考資料	必要に応じて適宜提示する 医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論	
履修上の留意事項	科目を履修するにあたり、解剖生理学、疾病治療論を十分復習して臨むこと。 予習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護学援助論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 加齢に伴う変化を考慮した看護および症状別看護を実践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 加齢による身体的、精神的、社会的変化を踏まえた看護を理解できる。 2 認知症のある患者の看護が理解できる 3 健康障害のある高齢者への看護の展開を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 加齢による身体的、精神的、社会的変化を踏まえた看護	8	1 老年症候群の特徴と看護 1) 熱中症 2) 脱水 3) 発熱 4) 腰背痛 5) 浮腫 6) 睡眠障害 7) 転倒・骨折 8) 排尿障害 9) フレイル (1)フレイルの基準と原因 (2)サルコペニア (3)治療と予防	
2 認知症のある患者の看護	8	1 認知症と社会制度 1) 認知症高齢者数の推移 2) 認知症をとりまく制度の変遷 2 認知症の看護 1) 加齢による病態と要因 2) 環境と行動・心理症状 3) 認知機能の評価 4) 予防治療、療法的アプローチ 5) コミュニケーション 6) 療養環境の調整 7) 急性期一般病床での援助 8) 地域で暮らすための援助 9) 家族への支援とサポートシステム	
3 老年期における看護過程	13	1 老年期にある患者の看護過程の展開 1) 老年期の患者事例を用いた看護過程の展開	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、レポート等	
テキスト		医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論	

参考資料	メディックメディア 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 看護がみえる vol.5 対象の理解 I 学研 看護過程に沿った対症看護(病態生理と看護のポイント) 学研 疾患別看護過程の展開 照林社 基準看護計画 臨床で良く出合う看護診断と潜在的合併症 その他、必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項	科目を履修するにあたり、解剖生理学、疾病治療論を十分復習して臨むこと。 予習をして授業に臨むこと。 レポート課題や演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	

成人・老年看護学実習

目的

成人・老年期の周術期・回復期・慢性期・終末期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象に必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。

目標

- 1 対象の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
- 2 対象の健康レベルの経過に応じた看護を実践できる。
- 3 対象や家族に関心を持ちかわることができる。
- 4 対象に必要な継続看護や多職種連携の必要性を理解できる。
- 5 専門職として倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。
- 6 学習の学びと自己の課題を明確にできる。

成人・老年看護学実習Ⅰ

〔2単位 90時間〕

目的

周術期にある対象とその家族を理解し、生体反応や手術侵襲からの回復促進を促し、対象の変化に応じて看護実践できる基礎的能力を養う。

目標

- 1 疾病の経過や対象の生活、健康障害と手術・治療に伴う身体的状態や生活機能を情報収集できる。
- 2 対象の手術前・手術後のフィジカルアセスメントができる。
- 3 対象の状態や反応の意味を、心理的变化や社会的役割への影響とあわせて理解できる。
- 4 対象の治療前後の生活、健康状態、機能変化に応じた看護を実践できる。
- 5 身体の形態や機能の変化が退院後の生活に及ぼす影響と必要な社会資源について考え、継続看護の必要性を理解できる。
- 6 対象と家族を尊重した態度で接することができる。
- 7 実践した看護を考察し、次の援助につなげることができる。
- 8 専門職業人としての倫理観をもち、責任ある行動がとれる。
- 9 実習での学びと自己の課題が明確にできる。

実習時期及び期間

2～3年次 12日間

成人・老年看護学実習Ⅱ・Ⅲ

各〔2単位 90 時間〕

目的

回復期・慢性期にある対象とその家族を理解し、対象が健康状態を維持・改善しその人の生活と折り合いをつけながら健康障害とともに生きていくことを支える看護実践ができる基礎的能力を養う。又、終末期にある対象とその家族を理解し、対象の苦痛を予防・軽減し、QOLを維持するための看護実践ができる基礎的能力を養う。

目標

- 1 対象の治療の経過や健康障害に伴う身体的状態、生活機能や能力の変化を情報収集できる。
- 2 対象の健康状態を治療の経過に応じたフィジカルアセスメントができる。
- 3 対象の健康状態や反応の意味を心理的变化や社会的役割への影響とあわせて理解できる。
- 4 対象の健康状態に応じた看護を実践できる。

回復期：

- 1) 対象の体力の回復の促進および合併症や二次的障害を予防する看護を理解できる。
- 2) 対象の生活行動の自立に向けた援助を理解できる。
- 3) 対象の障害の受容過程への支援を理解できる。
- 4) 対象の社会復帰および生活の再構築にむけた支援を理解できる。

慢性期：

- 1) 対象の健康上の課題を把握し、再発予防や身体機能の維持・改善を目指した看護を理解できる。
- 2) 対象の健康の回復過程を促進し、セルフマネジメント・セルフケア獲得にむけた支援が理解できる。
- 3) 対象のアドヒアランスを高め、疾病や症状の自己管理にむけた環境の調整を理解できる。
- 4) 対象の自己効力感を高め、自尊心低下を防ぐ看護を理解できる。

終末期：

- 1) 対象の健康障害による症状や苦痛の緩和にむけた援助を理解できる。
- 2) 対象の意志決定への支援を理解できる。
- 3) 対象のQOLを高める援助が理解できる。
- 4) 対象と家族の心情への配慮および最期までよりよく生きるための支援を理解できる。
- 5 身体の形態・機能や心理・社会的側面の変化が今後の生活に及ぼす影響と必要な社会資源について考え、継続看護と多職種連携の必要性を理解できる。
- 6 対象と家族を尊重した態度で接することができる。

- 7 実践した看護を考察し、次の援助につなげることができる。
- 8 専門職業人としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。
- 9 実習での学びと自己の課題が明確にできる。

実習時期及び期間

2～3年次 12日間